

第2回先進的まちづくり大賞 都市みらい推進機構理事長賞

取組名：油津商店街の取組 受賞者：日南市（宮崎県）

受賞理由：地方都市の商店街において、空き店舗、空き地等を活用した店舗、事業所の誘致による活性化への取組。キーとなる人材の公募による登用と、地方公共団体との役割分担のもと新たな施設の整備や運営等を担う地元主体の株式会社による取組等独自性が高く、商業店舗にとどまらず、IT企業の事務所誘致や若者のチャレンジを後押しする創業支援型の新規出店等の成果に結びつけている。また、歩行者交通量の増加や、商店街の空間等を活用した市民が自発的に企画・運営するイベントの増加等による賑わいの再生が継続している点が評価されました。

1. 地区の概要と課題

油津商店街を擁する日南市油津地区は、大正から昭和初期にかけ東洋一のマグロ基地と呼ばれるほどの水揚げ量を誇り、船材として利用されていた飴肥杉の需要増大とともに街が発展してきた。

昭和40年代には、アーケードの建設や道路整備が進むとともに商業施設の集積が進み、本市の商業中心地としてにぎわった。

しかし、平成10年に商店街の核店舗が撤退したことを皮切りに、次々と店舗が閉店、「シャッター通り」、「猫も歩かない商店街」と揶揄されるようになった。



昭和40年代の油津商店街

2. 取組概要

中心市街地活性化事業の一つとして、テナントミックスサポート事業を実施。本事業では、「4年間で商店街に新規テナントを20店舗誘致」という明確な目標を設定し、商店街再生に向けて月額90万円の委託料でテナントミックスサポートマネージャー（以下、「サボマネ」という。）を全国に公募した。

全国から333人から応募があり、その中から木藤亮太氏をサボマネに選定した。

サボマネには、油津地区に居住してもらい、日常的に関係者とコミュニケーションが取れる体制を整えるとともに、サボマネに担当市職員を張り付け、サボマネと市職員を1組のバディとして事業を遂行。



多様な機能を持つ油津商店街

また、商店街に誘致する業種についても、小売店舗を誘致するだけでなく、雇用吸収力の高いIT企業を商店街の空き店舗に誘致することや、若者のチャレンジを後押しする「創業支援型」の新規出店も積極的にサポートすることで、当市の課題でもある「働く場の創出」も図られ、新たな商店街の形（日南モデル）を構築していった。

3. 発現した成果

「4年間で商店街に新規テナントを20店舗誘致」という目標に対し、事業終了時には29店舗の新規テナントを誘致することができた。テナント誘致により、商店街の通行量が増加するとともに、ゲストハウスや交流施設、保育園、IT企業など、これまで商店街になかった新たな機能が生まれ、多様なコミュニティ形成につながっている。

また、事業過程において、民間においても、事業終了後を見据え、商店街でのフォローアップやテナント誘致、イベント企画運営をおこなう会社が設立され、官民連携の商店街再生につながった。

4. 今後の展開

事業終了から数年が経過し、サボマネの木藤氏は次のフィールドで活躍されているが、事業中に形成されたコミュニティやまちづくりを担う会社が誕生したことで、商店街内での自走が徐々に生まれつつある。

また、商店街で活躍する若手による、関係人口創出の取組や賑わい創出の取組など、新しい形を作り続ける商店街を目指している。